

## 神学と科学、仏理と物理を考える

経済工学リサーチ 主宰  
河内保二 (22機)



米ハーバート大学で神学と科学の共存模索というニュースを読んだ。神学は消滅したわけではなく、科学は万能というわけでもない。両者がそれぞれ足りないところを補って、共存を模索する様子が感じ取れる。筆者

も傘寿となり、古寺を訪ねたり、座禅に参加したり、写経したり、俱舎論などの經典勉強会に加わったりする中で、人生を色々と考えさせられる。日々の不安を押さえ、心を満たすのに、工学で足りず、経済学で叶わず、救済や濟度を祈ることになる。こうした気持ちはいくつかの短歌（号は朴粋）の形に煮詰まってくる。

救済は 身代わり仏も 代受苦も 因果応報  
超えてこそ成る 朴粋 注1  
因果説 悪因苦果の世の決まり 破りて 衆生  
楽果得るなり 朴粋 注2  
弥陀仏は衆生の罪業 引き受ける 回向により  
て 悪因楽果に 朴粋 注3  
量子での テレポーテーションと相似たり 因  
即果にて 回向救済 朴粋 注4  
救済は 結縁による 回向なり 衆生の罪業  
仏（ほとけ）身代わり 朴粋 注5  
結縁は 化学 触媒に 似たるかな 縁ある衆  
生 救われるなり 朴粋 注6

<<<注>>>1) 救済…現世や来世の苦患（くげん）を免れさせる意。代受苦…キリストが信ずる者の苦を代わりに受けること。因果応報…仏教の因果説。2) 因果説…自業自得の原理が仏教の倫理の基礎をなす。因果律…結果的には常に原因が先行しているという発想。因果律は物理学で非常に大切にされている原理という。因果律の侵犯…原因にはそれに先行する結果が存在するという発想で、例えば死ぬのが生まれ

る前であつたりとか。因果律の侵犯はおおむね物理学者を震え上がらせている。心理学でC・G・ユングは「自然現象と心の構造」（海鳴社刊、河合隼雄訳）において、因果律は「統計的な真理で、それは単に平均的に有効である」と述べている。3) 回向…大乘仏教の核心の思想とされるもので、仏菩薩の善根功徳を衆生の悟りと幸福のために振り向けるという思想。この回向の思想を裏返しにすると、仏が衆生の罪業を引き受けるという救済の考え方になる（岩波講座 日本文学と仏教 第2巻 因果 第4部 罪と報い 気多雅子）。因果応報原理の逸脱…回向は自己の善悪の行為が因となって自己の苦楽の果を生じるといふ本来の因果応報の原理を逸脱する思想であり、この逸脱なしには菩薩が他人である衆生を利益するという大乘思想が成り立たなかつたのであり、特に浄土宗はこの回向の思想に基づいて成立したのであると、梶山雄一氏は「菩薩ということ」（人文書院刊、1984年132頁）で述べている。4) 量子テレポーテーション…「量子もつれ」という原理で絡み合わせた2個の粒子を利用して、このうちの1個に第3の粒子を特殊な操作でかかわらせると、第3の粒子の状態が量子もつれにあった残りの粒子へ瞬時に移るといふ現象をいう。因即果…親鸞は『教行信証』の『行巻』で、救済は、信の始めにあり、阿弥陀如来の誓願のはからいによって人は信じて、念仏を思いたち、そのときただちに人は救済されると説かれる。「念仏往生の願因即必至滅度の願果」が浄土三経往生類に説かれ、これは因即果である。瞬時テレポーテーションの量子の遷移に共通する現象は因即果である。5) 結縁（けちえん）…仏道と縁を結ぶ意で、成仏、得道の因縁を得るために、写経とか法会とかを行うこと。化学反応の触媒の働きと通底する意味を持つと思われる。これに対して「縁なき衆生は度し難し」といわれる。6) 触媒…「それ自身は反応の前後で変化せず（消費せず）に化学反応を促進させる」物質のことをいう。これは広大無辺の救済に通じるのではないか。触媒の研究にノーベル化学賞が毎年授与され、07年は金属触媒の研究に授与された。